

第12回建設業経理士検定試験 2級出題予想

	第1予想	第2予想	第3予想
第1問	仕訳<手形の裏書き、建設仮勘定、有価証券、消費税、預り金の処理>		
第2問	本支店会計 買収 社債の処理 銀行勘定調整表	工事進行基準の計算 消費税の処理 退職給付引当金 株式の発行	債権の評価(償却原価法) 固定資産の交換 有価証券の売却 剰余金の配当
第3問	材料費会計	部門別計算	原価の分類
第4問	完成工事原価報告書(又は工事原価計算表)の作成+理論問題		
第5問	精算表の作成		

なぜこう予想したのか？

第1問の仕訳問題は、ほとんどが限られた論点からの出題になっています。予想に挙げたものを確実にマスターしておきましょう。上で挙げたものの他に過去の試験で頻繁に出題されている論点として、剰余金の配当、工事進行基準、当座借越などがあります。なお、解答にあたっては、勘定科目の記号まで記入することが要求されますので、選び間違い、書き間違いに気をつけて下さい。

第2問は、計算問題が問われており、傾向として単純な計算問題の他、勘定記入や取引の一連の流れの結果に関する問題も出題されることがあります。いずれにしても、内容そのものは基本的な内容で、他の問題の対策と合わせてできるものが多いので、第1問や第5問対策と合わせてテキストの内容を確認しておきましょう。なお、前回は3問構成でしたが、前回は特殊であった可能性も考えて、例年通りの4問構成の予想としています。

第3問は、パターンとしては費目別計算と部門別計算に大別されます。今回は、費目別計算のうち、第4回以来出題されていない材料費会計を第1予想としました。先入先出法と移動平均法の計算を、返品等があった場合も含めて過去問題で確認しておきましょう。また、第7回で出題された部門別計算を第2予想、第8回・第10回と直近で2回出題されている原価の分類(費目別の計算)を第3予想としました。

第4問は、基本的に問1で原価計算の理論的な内容に関する選択問題、問2で完成工事原価報告書の作成が問われています。問1の理論問題に対して、時間を割いて対策しても効率的ではありません。時々テキストを読んで「こんな話があるんだな」という感じ、ある程度の理解ができれば問題ありません。問2はほとんどが完成工事原価報告書の作成ですが、第7回のような工事原価明細表が再び出題される可能性も考えられます。表示形式が異なるだけで、解答を導く計算はどちらも同じなので、幾つかの表示パターンに慣れておく事が必要でしょう。

最後に、第5問です。第5問は毎回精算表の作成となっています。ポイントは、決算整理事項の仕訳となりますが、毎回下記の論点を中心とした出題となっています。その他にも、かなりの確率で出題されるお決まりの論点もあるので、これらのパターンをしっかりマスターしておけば高得点を狙えるでしょう。

《決算整理事項》

- ・ 貸倒引当金の設定
- ・ 減価償却費の計上
- ・ 退職給付引当金の設定
- ・ 完成工事原価の算定
- ・ 法人税、住民税及び事業税の計上